



木村 由美子  
(公明党 代表質問)

**図書館にファミリータイムの導入を**

**問** 読書の拠点でもある図書館で、赤ちゃんが泣いても周囲に遠慮せずに利用できる時間帯を設け、事前に利用者に知らせて協力してもらう「ファミリータイム」を実施している自治体がある。そこで、読書運動の環境として、市でも図書館のファミリータイムを導入してはどうか。

**答** 市の全図書館では、読み聞かせや手遊びを行う「おはなし会」のほか、読書相談や参加者同士の交流がある「0、1、2歳児向けのおはなし会」などの子ども向け事業の実施により、乳幼児を伴った多くの保護者が来館している。

一方、その保護者からは、子どもが騒いで他の利用者に迷惑を掛けているのではという心配から遠慮せずに気兼ねなく図書館を利用したいという声も聞こえている。

図書館のファミリータイムを実施している自治体では、保護者が気軽に安心して図書館を利用できるなど、高い評価を得ていることから、26年度に図書館のファミリータイムが実施できるよう、一般利用者へ理解と協力を働きかけるなど、必要な環境整備に努めていく。



▲おはなし会の様子

**その他の質問事項**

- ①26年度予算(臨時給付金ほか)
- ②市長の政治姿勢(大雪被害への支援等災害対策ほか)
- ③ふるさと応援寄附金事業
- ④介護予防と生活支援
- ⑤成年後見制度の普及啓発と市民後見人の育成
- ⑥高齢者・障がい者支援の充実
- ⑦ひとり親世帯の支援拡充



郷間 康久  
(統一 代表質問)

**地域ブランドを立ち上げ農業発展を**

**問** 平石地区は、稲作や野菜の栽培に適した肥沃な土地に恵まれ、特に米の美味しさには定評があり、市内外の消費者から高い人気を得ている。これを活かし、米や野菜などの独自ブランドを立ち上げ、共販センター化なども検討して、積極的な販売戦略を展開することについて、市の意見を聞く。

**答** 地域の共通のブランドとして付加価値を生み出す「地域ブランド」は、地域活性化に結びつく有意義な取り組みと認識し、市も、地域の特色を活かした直売所支援や加工品等の開発など、地域の活動に対し支援を行ってき

た。  
TPP参加交渉や米政策の見直しなど、大きな転換期にある中、生産者自らが、マーケティング調査や販路開拓を行い、農産物の販売や加工に取り組むことは、リスク負担もある反面、農業所得向上に有効であることから、生産者が行う「地域ブランド化」の取り組みを支援していく。また今後、宇都宮産の農産物を全国に広める取り組みとして、JAなどの関係団体と連携し、ブランド農産物の新たな創出や育成に努めていく。



▲市内の農産物直売所

**その他の質問事項**

- ①市長の政治姿勢
- ②26年度当初予算
- ③LRT事業
- ④福祉の向上
- ⑤環境と健康(平出工業団地の産廃施設等ほか)
- ⑥未払い借地と賃料積算基準の見直し
- ⑦宇都宮市民憲章推進協議会ほか2団体の組織一体化
- ⑧図書館の管理運営体系



荒川 恒男  
(共産党 代表質問)

**教育委員会の制度改革は必要なのか**

**問** 安部政権による教育委員会制度改革案について聞く。  
①この改革案は、国や首長の政治勢力による教育支配を歯止めなしに拡大しようとする危険な内容であるが、市の教育行政にこのような政治介入を望んでいるのか。  
②今の教育委員会制度はどのような理念と目的のもとに発足したのか。その理念と目的は、この改革案で保たれるのか。

**答** ①教育委員会が掲げる教育行政の重要事項や教育方針を十分に理解し、連携を密にしてきた。教育委員会のあり方については、現在、国において法案提出に向けた議

論がなされており、その動向を見守っていく。  
②教育は全ての個人の人格の完成を目指して行うものであり、特に、子どもの教育は、子どもの健全な成長発達のため、学習期間を通じて一貫した方針のもと、安定的に行う必要があることから、首長から独立した合議制の執行機関として、現在の教育委員会制度が構築されたこと認識している。

教育委員会制度改革は、国で検討が進められているが、教育委員会が執行機関として維持されることにより、教育の政治的中立性や安定性、継続性が確保されると考えている。

**その他の質問事項**

- ①市長の政治姿勢(LRT導入計画での市民との合意形成ほか)
- ②地域が元気になる公共事業(公契約条例の制定ほか)
- ③保健福祉行政(国の介護保険改悪への市民不安への対処ほか)
- ④市営住宅家賃減免制度
- ⑤教育行政(学童保育の充実)
- ⑥大雪対策